

「今年、競泳人生で最悪の夏でした」。

県大会決勝で、自己ベストの57秒88を出し、全中出場標準記録を突破し優勝した。「県大会までは調子がよく、その後もさらに自己ベストを更新できると思っていました」と振り返る。

県大会以降調子を落とし、東北大会では思うようにタイムが伸びず、59秒47の5位に終わった。全中までの2週間、練習で試行錯誤を繰り返すも、調子は上向きにならなかった。しかし、本番前日、よい感触を取り戻した。「これでいける」と思った。

迎えた予選本番、プレッシャーから体が動かない。前半飛ばし、後半は粘りの勝負が千葉の持ち味だが、レース全般を通して元気がなく予選敗退。全中の1週間後、JOCジュニアオリンピックカップでも、本来の力を出し切れず、予選で大会を後にした。

「初めて悔し涙を流しました。もうこんな思いはしたくありません。ゼロから泳ぎを作り直して、来年は絶対リベンジします」

全国中学校体育大会 水泳 100メートルバタフライ出場



千葉悠正 佐沼中2年
Chiba Yusei 迫町下舟丁

夏に挑む Zoom Up Tome 2016 Special

昨年は県大会を制したが、東北大会で破れ、全国へ出場できなかった。今年は、県大会、東北大会ともに3位という成績を残し、ペア初の全中出場を決めた。

全中では、一回戦松山南中(愛媛県)の白川・宮田ペアを4-2で下し、二回戦へ。二回戦は強豪上一色中(東京都)の渡邊・内藤ペアと対戦。好調なサーブを軸に攻め込むが、惜しくも1-4で敗れた。

「高校進学後もテニスを続ける」。2人は誓った。

全国中学校ソフトテニス大会 南方中テニス部白鳥怜・星柊也



写真左から、星、白鳥



全国中学校ソフトボール大会 佐沼中男子ソフトボール部

歴代の先輩たちからの目標「全国で1勝」を胸に、中尾中学校(群馬県)との試合に挑んだ。

1回表佐沼の攻撃、幸先よく1点を先制した。その後は、相手投手陣に押さえられ、自慢の打線は鳴りを潜めた。守備では、初回に逆転を許し1対16で敗れた。服部佑矩主将は「1回裏を守れきれず、相手に流れを渡したのが痛かった」と振り返る。

「全国で1勝」。先輩からの思いを胸に努力は続く。

全国中学校剣道大会 中田中女子剣道部



「苦しくても諦めず仲間につなぐ剣道」で県大会を連覇し、見事2年連続で全国へ駒を進めた。「全国制覇」を目標に掲げた今大会。昨年は予選敗退と悔しい思いをした。その分、今大会にかける思いは並々ならぬものだった。

五ヶ瀬中(宮崎県)と龍雲中(香川県)とのリーグ戦は、2敗で決勝に進めなかった。「攻めを意識し過ぎたのと、絶対に勝たなければという重圧に負けた」と部員一同。

仲間につなぐ剣道同様、思いを後輩につなぎ、来年の活躍を誓った。

「全国8強」を目標に、2度目の全国の舞台に立った迫愛会Jr。初日のリーグ戦順位でグループ分けをし、翌日のリーグ戦1位チームが決勝トーナメントに進む。初日は1勝1敗の2位。運命のリーグ戦2日目、強豪石海JVC(兵庫県)を相手に、フルセット勝負に持ち込むもセットカウント1-2で敗れる。2試合目は、下庄クラブ(福井県)を相手にセットカウント2-0で勝利するも、グループ2位で大会を終えた。

「この悔しさをばねに、また頑張ります」。暑い季節は終わらない。

全日本小学生大会 迫愛会 Jr.



子供自転車全国大会 北方小自転車クラブ



「登米に北方小あり」。県内屈指の強豪が、7年ぶりに全国へ駒を進めた。

大会は、学科と安全走行、実技の3つで競われた。今大会は、20位以内を目標に日々研鑽を重ねた。しかし、目標には届かず37位で終えた。

「運転技術は、上位との差はほとんどありません。学科で思うような点数を取れなかった」と千葉日依里(6年)は悔しさをにじませる。及川龍樹(5年)は「来年も全国へ行きます。チームを引っ張り、練習を頑張ります」と、チーム一同前を見る。

取材を終えて

この夏、多くの子どもたちが、全国の舞台で躍動し、素晴らしい結果を残した。これは、本人や関係者だけではなく、市民全員が誇れるまちの勲章だ。

しかし、今回紹介した子どもたちは、その結果に決して満足していない。

「勝負事は理不尽。努力しても必ずよい成績を残せない。勝ちで終われるのはたった一組。勝ち続けられる人は、ほほいさない。でも、負けたらそれで終わりではない。欠点や長所を再確認し、勝つことや努力の貴さを学べる」

昨年インタビューした、ラグビー元日本代表監督を務めた向井昭吾さんの言葉だ。

その言葉通り、紹介した子どもたちは、上位入賞しても、他大会での負けを悔やみ、次を見ている。これは、本人たちの気持ちはもちろん、教師や外部指導者など、支える人の教えによるところが大きい。

地域の指導者や活動環境があるからこそ、子どもたちはより頑張れる。活動できる土壌は、多くの市民が関わり、長い年月を経て作られてきた。子どもたちが輝ける土壌は、このまちの持つ大きな魅力なのだ、あらためて感じた。